

ちよつといひ話

～ 合 掌 ～

合掌は真言密教の法要所作で結ぶ印相の一つです。ですが一般には通常お参りする時、自然に両手を合わせた合掌印になっておりますし、又、時代劇の中ではしばしば謝る時の動作として手を合わせた姿を見ることがあると思います。普通の合掌は場所に応じて自然体なのです。しかし印相にはそれぞれ重要な意味があり、儀式の内容に因って使い分けをしております。合掌は密教の数ある印相の基本ですが浄土教でも手を合わせます。教えに因りますと合掌印は精神の統一を図る為とあります。しかし第81号白道を思い出して下さい。白道は清浄無垢の者は容易に進め、汚れ、罪ある者には非常に厳しい道でありました。私達が阿弥陀様の^{びやくごう}白毫から放たれた白光を身に受ける事が出来るかどうか？ここで合掌の姿が問題になるのです。合掌の姿 = 白装束の姿です。即ち、この姿は白色と言う最上の敬意を表し、我が心身は清浄無垢であります、と言う意味を秘めているのです。合掌した手を眉間から胸に向かって下してくると自然に定まる位置があります。佛様や御先祖の正面に坐して拝む時、胸の位置に合わせた合掌の印相を結べば己が手を通して**佛様や先祖から見えない糸で直接結ばれ**、目には見えないけれども心眼を開く印相です。修養を積みばやがて魂の交流が可能になる作法なのです。ですから必ず見えない糸で結ばれていると想いながら気を込めて誦経するべきなのです。

所作に何の疑問も抱かず、黙々と行ずるのも良いとは思いますが、法然上人のただ一向に念仏すべし、とおっしゃった意は一向の中にこの合掌の姿勢があると思います。故に、**極楽往生**は合掌の成果にあると言っても過言ではないでしょう。社会生活をしている我々は**眼・耳・鼻・舌・身・意**の作用で煩惱を引き起こしますが上述の如く一心不乱に邪念なく勤行出来れば、苦の娑婆とは言え**澄み切った心の持ち主**となれる事でしょう。合掌 十念 南無阿弥陀佛

善入院油掛地藏尊